

三輪山

ここから見える三輪山は、谷の一部をのぞいて全山アカマツの林でおおわれています。アカマツは乾燥の強いヤセ地に生える植物で、三輪山も変成岩類の岩石の多いヤセ地です。山中には巨石群が盤座^{いわくら}をつくり、山頂高峰付近、中腹滝付近、三合目石の原付近の三段に分かれて、山をとりまき原始信仰の姿をとどめています。

日本最古社
八大龍王辨財天大神
霽神社







神社

注意
神社の鳥居
から参道へ
は四輪車
自轉車は
参道故園
禁止

きけん





げ ん び あ ん 玄 賓 庵

ここは玄賓僧都がいんせい隠棲していた庵で、ここには重要
文化財の木像不動明王座像が伝わっています。謡曲で
有名な「三輪」は玄賓と三輪明神の物語を題材にした
ものです。

玄賓は弘仁九年（818年）になくなりました。





山邊道

(元伊勢) 松原神社と
豊鋏入姫宮の御由緒

大神神社の摂社「松原神社」は、天照大御神を、末社の「豊鋏入姫宮」(向かつて左の建物)は崇神天皇の皇女、豊鋏入姫命をお祀りしています。

第十代崇神天皇の御代まで、皇祖である天照大御神は宮中にて「同床共殿」どうしょうきょうでんでお祀りされていました。同天皇の六年初めて皇女、豊鋏入姫命(初代の斎主)に託され宮中を離れ、この「倭笠縫邑」やまとかさぬいむらに「磯城神籬」しきひもろぎを立ててお祀りされました。その神蹟は実にこの松原の地で

あり、大御神の伊勢御遷幸の後もその御蹟を尊崇し、松原神社として大御神を引続きお祀りしてきました。そのことより、この地を今に「元伊勢」と呼んでいます。松原神社はまた日原社とも称し、古来社頭の規模などは本社である大神神社に同じく、三ツ鳥居を有していることが室町時代以来の古図に明らかであります。

萬葉集には「三輪の松原」とうたわれ山の辺の道の歌枕となり、西につづく松原台地は大和国中を一望できる景勝の地であり、麓の茅原・芝には「笠縫」の古称が残っています。

また「茅原」ちはらは、日本書紀崇神天皇七年条の「神浅茅原」かむあさぢはらの地とされています。更に西方の箸中には、豊鋏入姫命の御陵と伝える「ホケノ山古墳」(内行花文鏡出土・社蔵)があります。



三氣大神神社



大和の青垣

「大和は国のまほろば たたなづく青垣 山ごもれる大和し 美^{うる}わし」と古事記にうたわれた。

奈良盆地は遠くに見える生駒山地や矢田丘陵、すぐ手前の景行天皇陵、さらに右手の巻^{まき}向^{むく}、三輪の山々など幾重にも緑の垣根に囲まれたようになっています。こうした環境を守るために、このあたりは大和青垣国定公園に指定されています。

山の辺の道

山の辺の道
大和青垣国定公園
2000年指定



松原神社・桜井

0.6 km



景行天皇陵・天理

2.5 km

山の辺の道



すー袋百円
おなへ
お風呂に

百円



